

東北の犯罪被害者遺族の交流会『語りの夕べ@山形蔵王』開催報告

東北の犯罪被害者遺族がつながり、交流を深めるため、一泊二日の交流会及び講演会を開催した。昨年の猪苗代での開催に続いて、東北で二回目の開催となった。



「語りの夕べ@山形蔵王」参加者による集合写真

被害者・運営委員・ボランティア・講師・支援関係者の39名が参加し、初日は東京都中野区の犯罪被害者等相談窓口で勤務されている稲吉久乃氏ならびに犯罪被害できょうだいを亡くしたきょうだいの会「葉の会」の代表・赤田ちづる氏による講演と、山形市在住で少年犯罪によって長男を亡くされた横山礼子氏による体験談の発表があった。



山形市在住遺族による体験談発表

その後、参加者・ボランティアは懇親会で夕食を取りながらの自己紹介と歓談を行った。

二日目の午前中は、ホテル横のグレンデで早朝ヨガに挑戦したり、ロープウェイを利用して鳥兜山の山頂付近やドッコ沼を散策したり、温泉、足湯や酒ミュージアムを巡ったりして、被害者どうしの交流を深めた。



グレンデでの早朝ヨガ

なお、本事業は赤い羽根福祉基金特別プログラムの「被害者やその家族等への支援活動助成」により実施した。

■実施要領

1. 日時

2025年7月12日（土）～13日（日）

2. 場所

蔵王温泉 JURIN 〒990-2301 山形県山形市蔵王温泉上ノ台 814

3. 参加者

東北各地からの参加者30名（青森1、岩手5、秋田3、宮城8、福島4、山形9）、講師2名、アドバイザー1名、運営委員3名、司会1名、山形県警1名、山形被害者支援センター1名 計39名

4. プログラム

【7月12日(土)】

13:30～17:00 第1部 講演会

- 1) 開会のあいさつ ハートバンド代表 井上保孝
- 2) 稲吉 久乃 氏 (保健師、地域住民の様々な相談に乗る保健センター勤務後、中野区の犯罪被害者等相談窓口で勤務) による講演
演題:「犯罪被害者等相談支援～川の源流で何が出来るか～」
- 3) 赤田 ちづる 氏 (犯罪被害者遺族、犯罪被害できょうだいを亡くしたきょうだいの会「栞の会」代表)による講演
演題:「死別を経験したきょうだいのグリーフと期待される支援」
- 4) 東北地方の犯罪被害者遺族による体験談の発表
横山 礼子さん (山形県在住)
演題:「少年犯罪に対する思い」
- 5) 質疑応答
- 6) 内藤秀男氏による自己紹介
- 7) ご案内 みやぎ交通事故ハナミズキの会 佐藤早織氏より「生命のメッセージ展」の開催について
- 8) ご案内 ハートバンド代表 井上郁美より懇親会、二次会、早朝ヨガのご案内、ハートバンド全国大会のご案内
- 9) 閉会のご挨拶 山形県 交通事故遺族の会 こまくさの集い 代表「語りのタベ@山形蔵王」運営委員 渡邊理香氏より
- 10) ご案内 2026年 東北地区地域交流会「語りのタベ@宮城」(仮称)
- 11) 集合写真

18:30～20:30 第2部 懇親会 40人参加 (記者も含む)

20:30～22:00 二次会 (任意参加) 30人参加 (記者も含む)

【7月13日(日)】

6:00～12:00 第3部 交流アクティビティ

6:00～6:50 早朝ヨガ (任意)、13人参加

晴天に恵まれ、ゲレンデの空気がひんやりと感じられる中で1時間弱体をほぐし呼吸に集中するヨガを楽しんだ。

8:40～12:00 ロープウェイを利用して鳥兜山頂駅へ行くグループ (15名) とふもとの施設を楽しむグループ (7名) に分かれた。鳥兜山を登った人たちは、鳥海山と月山の両方を望むことができた。山頂、ゲレンデ、ドッコ沼を散策し、山頂付近カフェで休憩した。ほかの人たちは、ふもとの温泉・足湯・酒ミュージアムなどを楽しんだ。中にはカモシカに遭遇した人もいた。

12:20～13:00 ホテルに戻り昼食のカレーを食べて解散 21人参加

13:10～15:00 ホテルバスが出発、途中道の駅「ぐっと山形」に寄りながら山形駅に到着

5. 参加者の声・開催の成果

以下、開催後に募った参加者アンケート結果より抽出する。「語りの夕べ」の目的である「東北の犯罪被害者遺族がつながり、交流を深める」ことについては、十分に達成できたと言える。昨年の猪苗代での初開催に引き続き、今年も東北地区地域交流会に参加した人が多く、知り合いを誘ってくれた人もいて、初めての参加者も増えた。また、昨年は一名も参加のなかった県もあったが、今年は東北6県のすべてから複数の参加者がいた。

一泊二日のプログラムの中で、講演会・懇親会だけではなく、早朝ヨガなどの任意参加のアクティビティや朝食会場、温泉・足湯巡り、昼食にカレーを食べながら、と様々な形をとって被害者が交流できる複数の機会を提供することができた。

開催後のアンケートに回答した30人全員が、来年もぜひ都合をつけて参加したい、と来年の宮城県での開催を楽しみにしていることが分かった。

講演会についての意見・感想:

- 赤田さんが話されていた「忘れられた遺族」の世の中になってきた事は、常日頃実感しています。親の話よりは、そろそろ子供達かもしれないです。先日、大学で講演をした際、私は子供達の当時の様子から、現在に至るまで話をしたのですが、聴講した教授の方々から、「今までたくさんのご遺族の話を聞いてきた。でも、それは親の心情が多く、子供達の話は少ない。もっと、焦点を子供達に当てた方が良い」と言われました。仙台では、まだまだなので、来年もう一度、赤田さんにぜひお願いしたく、この機会に広めていきたいです。
- 稲吉さんの講演、とても参考になり、今の自分が実践できることはやってみたいと思っています。
- きょうだいを失い、たくさんのご経験をしましたが、学術的に分析ができるということを知らずに現在まで過ごしていました。今は悲しみの感情もたくさん研究がされ、前を向く近道があるのだと知りました。過去の自分でも理解しきれていなかった感情を知れた気がします。また、長い期間自分は頑張ってきたのだなと思えました。とても良い機会をありがとうございました。
- 稲吉さんのお話では、源流から予防できるサポート支援が必要でありながら、まだまだ支援に辿り着ける場所が限られているということがわかり、衝撃を受けました。赤田さんのお話は、初めてお聴きしたのですが、子どもを亡くした親が多く参加されていた今回でお話をされることはとても勇気のいることであり、当事者であり、支援者であり、研究者である赤田さんの言葉だからこそ、心に響くものがたくさんあり、お話を聞いた後はすごくすっきりした感じがありました。横山さんのお話は、こんなに残酷な事件があったのだととても悲しくなりました。娘さんが初めてお母さんのお話を聞いたとあとで知り、大丈夫だったかなと少し心配だったので、今度お話してきたらいいなと思っています。

懇親会についての意見・感想:

- 多くの方が、お話ししたいこと、溢れていたように感じました。時間的には、ちょうどよかったかと思いますが、参加者名簿のようなものがあると、より皆さんの顔と

名前がわかりやすいのかなあと、思いました。

- 皆さん喪失経験をされているため、他の機会にはない、安心を感じながらお話しできるのがとても嬉しいです。いつもの会話より、少し踏み込んで自分の話もできる気がします。自分を肯定することもでき、去年に引き続き心から感謝しております。
- 自己紹介が苦手と言っていた方々も、結構話をしていたので、雰囲気だったのか、それはそれで良かったと思う。
- 普段は職場とアパートの往復ばかりなので、自然がたくさん場所に行くとても気持ちが良いです。東北各地良い所があると思うので、今後も楽しみです。
- どうしても同じテーブルの人と話す時間が増えてしまい、出来たら良いなと思っていた他県の方との交流までにはいたらなかった。限られた時間をどうつかうか、自分自身が工夫、反省をしたい。
- みなさん知らない方が多かったので、ちょっと苦手かな。

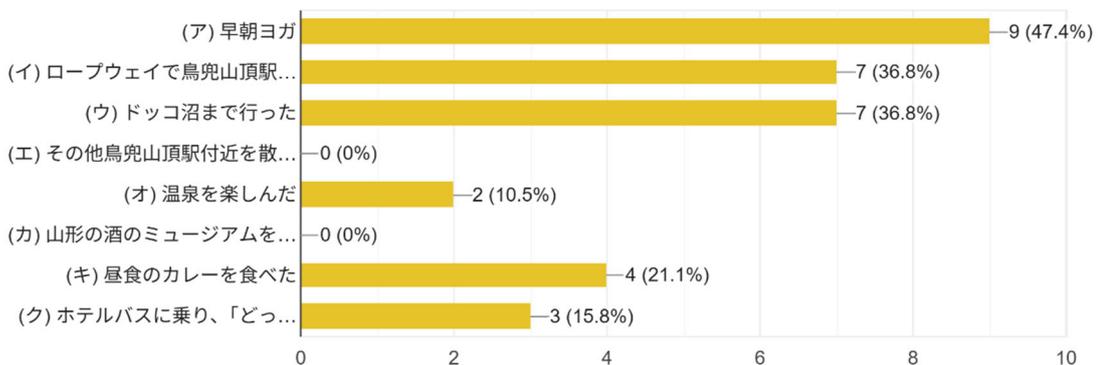
二次会についての意見・感想:

- きょうだいを失った方々と、お話をさせていただきました。共感できることがたくさんあり、とても嬉しかったです。
- 開放的な空間の会場で、交流もしやすく良かったと思う。
- 同じ境遇のみなさんと、近くでおはなしできてとてもよかったです。
- 思った以上に多くの方が参加して賑やかで、皆さんが様々な方と交流する機会となったのではないかと思います。
- きょうだいの場を作らせて頂きありがとうございました。またゆるく皆さんと繋がっていきたいと思います。とてもいい時間でした。

二日目のアクティビティについての意見・感想

12. 参加したアクティビティで1番楽しかったのを上位から二つ選んでください。

19件の回答



早朝ヨガを体験した人、ロープウェイで鳥兜山頂駅まで行った人、ドッコ沼などを散策した人の満足度が高かった。一方で、体力に不安があるなどの理由で山頂まで行かなかった人が少し物足りない時間を過ごした模様で、次年度以降の企画において検討の余地がある。

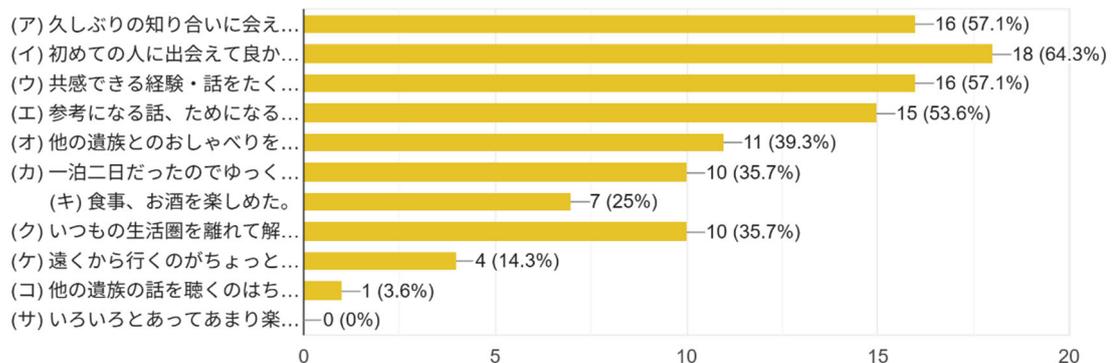
- 体を動かしたり、ものを作ったりする時間があると、一日目ではあまりお話しするこ

とができなかった方とも話すことができ、いいなあと思いました。

- 体力や精神的に、積極的に動けない方もいらっしゃいました。のんびりゆっくりお話しができるスペース(ティタイム、カフェなど)があると良いと思いました。
- 天气に恵まれ本当に気持ちが良かったです。また足湯を少し利用しただけでめちゃくちゃ足が軽くなりました。体が温泉や足湯やヨガでリラックスできると、日ごろの緊張もほどけて心の方もやさしくおおらかになれる気がしました。みんなで山頂付近を三々五々歩きながら自然と笑い声が聞こえてきて楽しかったです。
- 車で行ける範囲なら問題ないですが…長距離歩行が厳しいので、電車のホームの階段をいくつも越えて来たらへたってしまいました。ドッコ沼も行って見たかったですね。歩く距離の少ないアクティビティがあると助かります。

全般的に参加した後の意見・感想:

14. 全般的に今回参加してどう思われましたか?…当するものがあれば、3つまで選んでください。
28件の回答



「初めての人に出会えて良かった」(64.3%)に続いて、「久しぶりの知り合いに会えてよかった」と「共感できる経験・話をたくさん聴けた」が57.1%、「参考になる話、ためになる話をたくさん聴けた」(53.6%)という声が上位を占めた。

またその他自由記述には以下のようなコメントが寄せられた。

- 初めてこういう会に参加して、本当に良かったと思いました。参加する前は誰も知らないし、自分が参加していいのか、参加してどういう気持ちになるのか、想像できなかったけれど、勇気を出して参加して良かったです。赤田ちづるさんの講演は、自分に当てはまっており、涙が止まらなかったです。二次会でも声を掛けていただき、皆さんと同じ思いを共有できたことは財産です。
- 皆様にお会いできるだけで元気をいただけるので、来年も参加したいです。全国大会でしかお会いできない方もいるので、全国大会にも行きたいのですが…何度も土日休みを取ることが難しいので考えます。
- 他の遺族の話を聴く、他の遺族と交流する、日常ではなかなか知り得ない情報を得る、といった機会は、日常、頑張れているご遺族にとっても、なかなか元気が出ない、一人で抱え込んでいるなどのご遺族にとっても、大切な変化の機会になると思う。今回二度目の開催にあたり、昨年参加した方にとっては再会が大きな喜びや糧となり、初

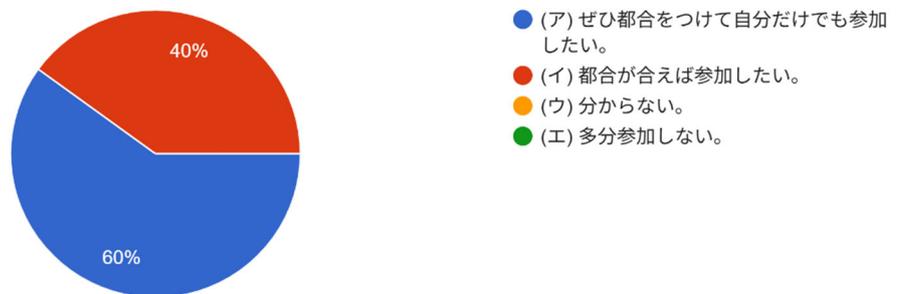
参加の方にとっては不安や緊張の中、新しい出会いや気づきがたくさんあったと思っています。時間をかけて準備を進められてきた委員の皆様には心から感謝を申し上げます。大変お疲れさまでした。

- 有意義な、時間をありがとうございました。一人ではない、と感じられた時間でした。色々ご準備等ありがとうございました。
- 去年に引き続き参加させていただいて、とても有意義な時間を過ごすことができました。姉と過ごした時間よりも、姉を失ってから時間が倍の長さとなり、最近では姉がいたこともどこか遠い幸せな幻だったんじゃないかと感じていました。それくらい時間も経ち、自分も変わってしまったのだと思います。ですが、語りの夕べに参加させていただくことによって、自分が妹であったこと、姉との思い出を鮮明に思い出すことができます。成長し、姉がいなくなった日常に慣れ、日々の忙しきで記憶に蓋をしがちですが、今でも姉との思い出は宝物です。今年も貴重な機会を、本当にありがとうございました。
- 丁寧にご準備くださり、本当にありがとうございました。二日間、いろいろなところに運営の皆さまの温かいおもてなしや思いやりを感じることができて、私にはそれが何よりも嬉しいことでした。また東北の皆さまにお会いできることを楽しみにしています。

次回以降の参加について:

15. また来年も参加したいと思いますか？

30件の回答



「ぜひ都合をつけて自分だけでも参加したい」または「都合が合えば参加したい」と回答された方ばかりであった。(回答者数: 30人) 来年は宮城県で開催する予定であり担当者も決まっているということで参加への具体的なイメージがわいていた模様である。

6. 今回開催して見受けられた課題と次年度に向けての対策、留意点

以下、開催して参加者からの事後アンケートや運営委員より指摘のあった問題、課題と次年度以降の対策、留意点を記す。

No	今回開催して見受けられた問題、課題	次年度以降の対策、留意点
1	記録写真を撮る専任のスタッフが居なかった。親しい記者に依頼してしまった。	次年度以降は専任のカメラマンを指定し、予算も手当とする。
2	配布資料には無いスライドが講演で紹介された。	配布資料をコピーする前について講師に再度確認する。あるいは、当日配布資料と違う部分がある旨を伝えてもらう。
3	参加者名簿が欲しいという声あり。	もし今後は参加者名簿を作るということであれば、名簿への掲載の可否・記載の仕方を参加申込アンケートで聞くようにする。名簿の取り扱いについてくれぐれも注意してもらうよう説明を複数回する。
4	知り合いが居なくて懇親会がちょっと苦手だったという声あり。	初参加の人だけではなく、一人しかいない県からの参加者には話しやすい人が周囲にいるような席順などを検討する。
5	初参加の人への配慮。	「お申し込みありがとうございました」とご挨拶のメール等こまめに連絡を入れる。
6	歩行困難な人、体力に自信のない人等は、鳥兜山・ドッコ沼散策を遠慮され、交流の対象・内容が限定された。	体力に自信のない人でも楽しめるアクティビティ、雨天の場合のアクティビティを充実させる。 観光案内などの情報を早めに出すようにする。(今回は配布資料に入れていた。)
7	テレビの特集は良かったが、地元の被害者についても紹介してほしいと思った。	地元の新聞記者・メディアには開催の趣旨とともに地元の立役者を丁寧に紹介する。
No	前回の開催より改善された点	次年度以降の対策、留意点
8	試泊も行い、ホテルとの事前のやり取りも入念に行っていたので、参加者への案内、チェックインなどもスムーズだった。	ホテルの備品の種類、領収書の準備、アレルギー対応、食事数、諸施設への案内、掲示物、吊もの(バナー)、アクティビティの雨天対応、送迎時間などノウハウがたまってきているのでチェックリストを用意する。
9	講演時間、休憩の取り方、体験談発表の時間、懇親会での各参加者による自己紹介などの時間配分が今年の方が良かった。タイムキーピングが良かった。	人の話を聴く時間とおしゃべりを楽しむ時間のバランスを考えて次回以降もプログラム、講演内容、時間の配分について十分な検討を重ねる。また、休憩や質疑応答の時間を適切に設ける。講演の時間が長くなりすぎて、情報過多とならないような配慮が必要。

7. 関連報道

テレビ

YBC 山形放送 2025 年 7 月 14 日 苦しみや悩みを共有 山形市で犯罪被害者の遺族たちが交流 被害後の負担大きく | YBC NEWS NNN

<https://news.ntv.co.jp/n/ybc/category/society/ybf895a205609f47038c6686759c8f44bd>

新聞

山形新聞 2025 年 7 月 13 日「犯罪被害者遺族語って交流 東北から 30 人参加 本件初開催 長男亡くした横山さん（長井）講演」

毎日新聞 2025 年 7 月 17 日「心苦しき 今でも続く 被害者遺族 30 人 胸の内語り交流 蔵王 /山形」

朝日新聞 2025 年 5 月 19 日「犯罪被害者遺族の交流会、7 月に山形で 『話を聞いてみませんか』」

8. 参考資料

記録写真、テレビニュース記事、新聞記事、開催チラシ

以上

犯罪被害者遺族 語って交流

東北から30人参加 本県初開催、山形で「夕べ」



集団暴行事件で長男湧さんを亡くした悲しみを語った
横山礼子さん（中央）

長男亡くした横山さん（長）講演

東北6県の犯罪被害者遺族が交流する「語りの夕べ」が12日、山形市蔵王温泉のホテル「JURIN」で開かれ、本県の9人を含む遺族約30人が集まった。本県では初めての開催で、それぞれの経歴を語り合い、集団暴行事件で長男を亡くした、長井市の横山礼子さん（59）が講演で「息子を失った悲しみは何年たっても癒えない」などと語った。

横山さんは2012年7月15日、長井市内で発生した集団暴行事件で、長男湧さん（当時18歳）を亡くした。湧さんは同い年の少年3人から暴行を受け、翌月に急性肺障害で死亡。加害者は傷害致死罪で起訴され、裁判員裁判で分離審理された。横山さんは被害者参加制度を活用して意見を述べ、主導的立場の少年には懲役5年以上10年以下、他2人には同5年以上9年

以下、同4年以上8年以下の不定期刑による実刑判決が言い渡された。横山さんは事件当時を振り返り、「人間の冷酷さに涙が止まらなかった。血だらけの息子が玄関に倒れていた光景を思い出すと、今でも呼吸が苦しくなる」と胸の内を明かした。少年3人に対しては「一生刑務所に入っていてほしい」と述べ、「加害者を守る少年法には納得できず、改善

の車庫にあるオートバイ国立公園を視察された。最古の野生馬「モウコノウマ」（タビ）の自然保護区で、両陛下は2時間近くかけて巡り、タビの群れが草を食べている様子を見学するなど雄大な自然を満喫した。視察を終えた天皇陛下は報道陣の取材に応じた。6日からの滞在を振り返り

車庫を100頭以上の馬が約20分駆け抜ける競技で、両陛下はゴール付近にあるフイ・ドローン・ホダグ競馬会場でフレルスフ大統領夫妻と共にレースの行方を見守った。青い空と見渡す限り広がる緑の大地を先頭集団の馬が疾走し、両陛下は笑顔で拍手した。

万博来場者の自治体内訳

※4月13日～6月20日の来場者（スタッフら関係者を含む）	37.9%
クロスロケーションズ推計	13.4%
大阪府	7.4%
兵庫県	6.2%
東京都	5.4%
奈良県	3.7%
京都府	3.5%
愛知県	2.2%
滋賀県	1.9%
兵庫県	1.9%

観光客に絞れば関西圏の割合が下がる可能性がある。大阪府の37・9%が最も多く、次いで兵庫県の13・4%だった。東京都が7・4%で3番目に。愛知県の6・2%、京都府5・4%、神奈川県3・7%と続いた。本県は0・1%だった。近畿以外の地域別は関東が15・9%、北陸・中部は



性的隠し撮り「被害者」

日本 小中高などのコ
連連

ジェンダー 2025

アスリートが性的意図を持つて隠し撮りされ、画像が拡散されることが社会問題となる中、日本陸上競技連盟が、小中高校などのコーチ555人に被害実態などを調べた結果、13・5%（75人）が「チームが競技会で被害に遭った」と回答したことが12日、分かった。練習などでも3・2%（18人）が「ある」と答え、警

察に相談す
た。交流サ
投稿された
サイトに転
えもあり、
改めて浮き
日本陸連
ウイルス禍
戻ってきた
害は依然と
い」として
日本陸連
月、小中高
ラブチーム
で指導する

を望んでいる」と述べた。東京都中野区の犯罪被害者等相談支援窓口で、相談員を務める保健師の稲吉久乃さんが、行政の支援体制について現状を紹介。関西学院大「悲嘆と死別の研究センター」研究員の赤田ちづるさんが、きょうだいを犯罪や事故で失った子どもへの影響などについて解説した。懇親会も開かれた。遺族が交流する居場所を東北地方でもつこうと、全国の犯罪被害者団体でつくるネットワーク「ハートバンド」が昨年、第1回を福島県で開催。今回は2日間の日程で、13日はヨガや散策で遺族の交流を図る。（小形尚輝）

航空自衛
ブルーイ
関西万博
た。薄雲が
が飛行を披
根リングの
ごい」と天
関西空港
阪万博のシ





テレビ
TV

AM918
FM92.4

ラジ
オ
Radio



ニュー
ス
News



アナウン
サー
Announcer



イベン
ト
Event



試写会・
プレゼン
ト
Present

[YBC NEWS.NNN](#) > 苦しみや悩みを共有 山形市で犯罪被害者の遺族たちが交流 被害後の負担大きく

社会

苦しみや悩みを共有 山形市で犯罪被害者の遺族たちが交流 被害後の負担大きく



2025年7月14日 18:04



犯罪によって家族を亡くした遺族同士の交流会が12日、山形市で開催されました。東北地方に住む犯罪被害者遺族たちがなかなか周りに理解されない苦しみや悩みを共有しました。

長男を亡くした横山礼子さん「どうして湧は死なないといけなかったのか。悔しくて悔しくてしかたない。何年たっても悲しみは癒えないし加害者の3人を許すことはできない」

息子を奪われた悲しみを語る長井市の横山礼子さん（59）。2012年7月、当時18歳だった横山さんの長男・横山湧さんは、中学時代からの同級生の少年3人らによって3時間にわたり、殴る蹴るなどの暴行を受け亡くなりました。犯行の理由は、湧さんが電話に出なかったという短絡的なものでした。

横山礼子さん「買い物に行ったときは販売員に『加害者の親も大変だ』と言われなぜそんなことを言われたいといけなかったのかと抗議した。私たち家族は何も悪いことしていないのに悔しくて仕方なかった」

「いまだに感情的な波はあるが自分の子どものこと事件のことを知ってもらいたいと思いを話した」

山形市で12日から2日間にわたって開かれたこの交流会は、犯罪被害者遺族同士でつながりを作ることで少しでも遺族の悩みの解決につなげようと犯罪被害者団体ネットワーク「ハートバンド」が企画したものです。東北での開催は福島に続き2回目。山形県では初めての開催です。県内を含む東北地方からおおよそ30人が参加しました。

主催した団体で代表を務める井上郁美さんと夫の保孝さんも1999年に酒酔い運転の大型トラックによって長女と次女を亡くした被害者遺族です。

井上郁美代表「被害者同士のサポートってすごい力を持っている。何年か前に被害に遭った人に『あなたは回復できるから』という姿を見るだけでも最近被害に遭った人がちょっとだけ希望の光を持てる」

夜は食事をしながらの懇親会。被害者遺族として友人として、お互いの近況を話して笑いあったり悩みを話しあったりして思いを共有しました。

妹を事故で亡くした参加者「母は今一人で気仙沼に暮らしているが何歳になっても大切な娘で亡くなって5年経つがまだ納骨できずに家にいる。なかなか気持ちの折り合いをつけるのは苦しいところだが私が今できることをみなさんの話を聞きながら少しでも前に進んでいけたらと思う」

弟を交通事故で亡くした参加者「飛ばしてもらっていいですか？」（大丈夫！泣いてもいい場所だよここは！）「弟が交通事故で亡くなって母親が弟が亡くなった後暗闇でじっと目を閉じてる。納骨できなくて」

息子をひき逃げで亡くした参加者「私の仕事は保護観察官をしている。当時、自分の思いを話せる人・場所が全く無かった。ただただ仕事をしなければいけない。その仕事は加害者支援を

心苦しさを今でも続く 被害者遺族30人 胸の内語り交流 蔵王 / 山形

地域 | 山形 | 東北

毎日新聞 | 2025/7/17 地方版 | 有料記事 753文字

メモを追加する



傷害致死事件で亡くした長男湧さんの写真をスクリーンに映し、講演で現在の胸の内を語る横山礼子さん＝山形市内で2025年7月12日、古賀三男撮影

犯罪被害者団体ネットワーク「ハートバンド」が、東北地区交流会「語りの夕べ@山形蔵王」を山形市蔵王温泉のホテルで開催した。殺人事件などの被害者遺族約30人が参加し、県内からは2012年7月の傷害致死事件で長男（当時18歳）を亡くした横山礼子さん（59）＝長井市＝が悲痛な気持ちなどを語った。

交流会は被害者遺族ら同士が触れ合ったり、語り合ったりすることで心を癒やすことが目的。今回は12、13日に開かれ、横山さんは初日に自らの体験を語った。

横山さんの長男湧（ゆう）さんは最上川の河川敷で顔見知りの少年3人から3時間にわたって集団暴行を受け、生死をさまよった末に亡くなった。3人には傷害致死罪で不定期刑の実刑判決が下った。

横山さんは「湧が玄関で血だらけでうずくまっている姿を思い出すと今でも呼吸が苦しくなる」と振り返り、「3人は息子を殺しても刑期を終えれば親元に戻ることができるが、息子は戻って来ない。二度と普通の暮らしは戻らない」と今も続く心苦しさを明かした。

その上で少年法について「あまりにも刑罰が軽い。大人と同じ罰にしてほしい。被害者遺族は納得できない」と訴えた。

12日の夕方には懇親会があり、13日には蔵王の散策や温泉巡りを通して、参加者たちは交流を深めた。

ハートバンドは05年8月に設立された。代表の井上保孝さん（75）と妻郁美さん（56）は1999年11月に東名高速道路を車で走行中、飲酒運転の大型トラックに追突され、同乗していた長女（当時3歳）と次女（同1歳）を亡くした。犯罪被害者支援の活動に取り組み、ハートバンドには現在、全国18団体が参加している。

06年から毎年、関東で全国大会を開催しているが、東北からの参加者は少ない。そのため、昨年からは東北での交流会を始めた。【古賀三男】

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

画像データは（株）フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.

2カ月間無料で有料記事が読み放題！30周年キャンペーンの詳細はこちら

朝日新聞 > 記事

犯罪被害者遺族の交流会、7月に山形で「話を聞いてみませんか」

兼田徳幸 2025年5月19日 11時00分



申し込み用QRコード

全国の犯罪被害者団体や自助グループでつくる「犯罪被害者団体ネットワーク（ハートバンド）」は、東北地方の犯罪被害者遺族のつながりを深めようと、7月に山形市で地域交流会を開く。

東北6県で暮らす犯罪被害者や遺族の情報共有と懇親が狙い。「語りの夕べ@山形蔵王」と題し、蔵王温泉の宿泊施設を会場に7月12日から1泊2日の日程で交流を深める。

初日は集団暴行事件や交通事故で家族を失った当事者らの講演と懇親会を企画。2日目は温泉巡りやこけしの絵付け体験などの交流アクティビティーを楽しむ。宿泊費（1泊2食付き）は主催者が負担する。

交流会の準備を進めている山形市の渡辺理香さんは29年前、小学1年だった長女を交通事故で亡くした。「悲しいよね、つらいよね、と気持ちをただ受け入れてほしかったのに、周囲は早く立ち直らせようとする声ばかりでつらかった」と孤立感を深めた体験を思い返

す。「そんな時に参加した遺族会は気持ちを吐き出しても否定されずに受け入れてくれて、気持ちが軽くなった。様々な人たちがいろいろな思いを抱いて集まる場でまず話を聞いてみませんか」と呼びかける。

申し込みはQRコードから。随時受け付けている。問い合わせは運営事務局のメール（he.art.band.mirai@gmail.com）へ。

注目の連載記事 →

もっと見る

そもそも解説

【そもそも解説】秋に入り急増するクマ被害 冬眠前にエサ不作影響か



厳選推し店 あまから手帖×朝日新聞
金木犀 余韻に浸るあっさりラーメン



注目情報

マイナビが提供する探究学習プログラム